

組織の目標設定シート(行政経営Aシート)

組織	農業基盤課
職	課長
氏名	前川 久義

組織の使命・役割	何のために我が組織が存在するのか、我が組織が果たすべき使命・役割は何か
	安全・安心な農産物の生産や収益性の高い農業を実現するための生産基盤整備と併せて、農村地域の活性化、快適で美しい田園空間の形成及び農地・農業用施設に係る災害の未然防止を図るため、農業農村整備事業を計画的に実施するとともに、農業・農村の持つ多面的機能の果たす役割を広く県民に啓発する。



組織の目標	使命・役割を果たす上で、我が組織が目指すゴール(成果)は何か、その目標値はどのような水準か
(定性的目標)	何をどのような状態にしたいか
	<p>① 水田の大区画化及び水田の畑利用が可能となる排水改良などの生産基盤の整備を契機として、農地の利用集積を図るなど、多様な担い手を育成する農地整備の推進。</p> <p>② 国・県道を補完し、農産物の流通の合理化や緊急避難路機能を持つ農道網整備による流通ネットワークの確立。</p> <p>③ 大規模穀倉地帯や畑作地帯の持続的発展のため、農業水利施設の適切な保全及び社会的状況の変化による浸水被害など災害の未然防止を図り、農業用水の安定供給に向けた基盤整備の推進。</p> <p>④ 農業への理解促進や環境に対する豊かな感性を持つ子供を育てていくために、農業・農村が持つ多面的な機能を活用した体験型の環境教育を推進。</p>

(定量的目標)	具体的な指標、目標値を設定する				
目標とする成果指標	現行値	年(度)	目標値	年(度)	目標値の設定根拠(他県との比較など)
①30a程度以上水田の整備	全体		25,200ha		いしかわの食と農業・農村ビジョン(H18.4策定)
	加賀	H26年度	12,800ha	H27年度	
	能登		12,400ha		
②広域農道の整備	168 km	H26年度	177 km	H27年度	いしかわの食と農業・農村ビジョン(H18.4策定)
③農業水利施設の整備					
・農業用排水路整備	134 km	H26年度	129 km	H27年度	いしかわの食と農業・農村ビジョン(H18.4策定)
・老朽ため池の整備	410 箇所	H26年度	438 箇所	H27年度	いしかわの食と農業・農村ビジョン(H18.4策定)
④「いしかわ田んぼの学校」実施校の割合	74.3%	H26年度	100 %	H27 年度	いしかわの食と農業・農村ビジョン(H18.4策定)



27年度に重点的に取り組むべき課題	左記の具体的な内容を記載する
①多様な担い手を育成する効果的な農地整備の推進	担い手の育成と農地集積が確実に図られる地区を特定し市、町、農業団体等と連携し、ほ場整備を推進する。特に整備が遅れている能登地域については重点的に整備をする。
②流通ネットワーク確立に向けた農道整備	国、県道等の既設道路と接続し、早期供用が可能な区間を重点的に整備推進する。
③災害の未然防止と農業用水の安定供給に向けた基盤整備	宮竹用水、セヶ用水等の基幹農業水利施設を対象に、老朽化とともに宅地開発等により浸水被害をきたしている水路を重点的に整備する。また、災害の未然防止を図るため、ため池管理体制を強化するとともに、老朽化したため池を整備する。
④農業・農村が持つ多面的な機能を活用した体験型の環境教育の推進	「いしかわ田んぼの学校」について、ホームページでの情報発信や県内全小学校へのパンフレットの配布、県教育委員会とのタイアップなど、小学校に対して積極的な参加を働きかける。